

021

避難の可否を判断するための情報を
得られる「さるぼぼアラーム」

取組主体

有限会社デザインオフィス・シー

従業員数

3人

想定災害

全般

実施地域

岐阜県

- ・災害時に避難の判断ができるように、屋外に設置し、スマートフォン等から身近な場所の生の情報を得られるセンサーを販売。ソーラー電源のため持続的に使用でき、配線不要でコンパクトな設計となっている。

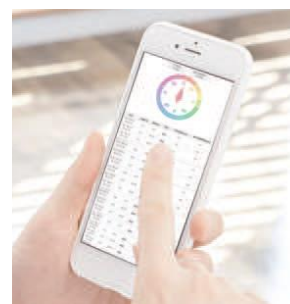
1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

避難を判断するために身近な生の情報を得られる IoT 気象防災システム

- ・電子機器の設計や製造を行う有限会社デザインオフィス・シーは、平成 30 年 7 月豪雨での被災を機に、自分の身を守るためには、行政や自治体の出す情報だけでなく、自分のすぐ近くの生の情報を得ることが重要だと考えた。
- ・そこで同社は、現場から離れた場所でもスマートフォン等から確認でき、災害の危険を事前に察知して安全に避難するための製品として、「さるぼぼアラーム」を開発した。同製品は土砂災害が発生する恐れのある法面等に容易に設置することができ、傾斜の変動を感知し、リアルタイムで土砂災害発生の前兆を可視化する。
- ・現在は基本モデルである傾斜センサー以外にも、水位や風向き、風速、雨量、暑さ指数等を計測する様々な気象機器を接続できるように種類を拡充している。
- ・電源には太陽光エネルギーと蓄電池を使用しており、配線不要で持続的に使用可能である。非常にコンパクトな設計で設置しやすく、気温変動や湿度等の環境変化、浸水、紫外線による劣化にも対応するよう工夫した。
- ・配線工事不要で、インターネット環境があればどこにでも設置できる。山間地では電波が入らない問題があったが、複数の通信方式の選択や組合せを可能にしたことで設置範囲を拡大している。



さるぼぼアラーム「基本モデル」



風向風速のモニタリング

画面イメージ

2 取組の平時における利活用の状況や防災・減災以外の効果

- ・全ての機器に傾斜センサー、気温・湿度・気圧・電池電圧のビルトインセンサーを内蔵しているため、平時から、スマートフォン等を通じて現在の気象状況を知ることができる。
- ・環境モニタリング（温度等）や工場での振動計測等、防災・減災以外の分野からの引き合いが増えている。

3 現状の課題・今後の展開等

- ・同社では、今後導入実績を積み重ねることで、信頼性の確保を目指している。また、接続するセンサーを拡充すること、特に音や振動による構造物等の劣化診断を拡充することを計画している。

担当者の声

- ・「さるぼぼアラーム」は発表から 2 年が経ちました。これまでに様々な企業や機関の協力を受け、実証を積み重ねてきました。無配線という特徴を活かし、今まで監視の目が行き届かなかったところに目が届くようになりました。
- ・我々の知らない優れたセンサー技術や、集めた大量のデータから早期に異常を見つけ出すようなソリューションを持つ企業や団体もあると思います。今後も様々な企業や団体とのコラボレーションを進め、新たな付加価値を創造し、防災・減災に役立てていきたいと思っています。

問合せ先

有限会社デザインオフィス・シー 法人番号：7200002027626
TEL：0576-34-0028 FAX：0576-34-0029
E-Mail：info@designofficesee.com

サイト URL



動画

